

いま観るシネマ
「痛くない死に方」

高橋伴明(監督・脚本)

末期がん患者の最期を見つめ 在宅医療のあり方を問う

フリーランス記者 坂口さゆり

「在宅医という存在を知り、延命治療を断るために日本尊厳死協会にも入っていた私が、その時点で考えられていたシナリオを書きました。自分が『こういうふうに死ねたらいいな』という思いを込めて作った映画です」

そう話すのは、「痛くない死に方」でメガホンを取った高橋伴明監督(71)だ。プロデューサーから在宅医療のスペシャリストである長尾和宏医師の著書『痛い在宅医』を渡され、映画化を打診された。

「(在宅医療の現実を綴った)この本だけだと映画にしづらい。どうすればいいかと考えていたら、書きたいことが見えてきた。宇崎竜童さん演じる末期がん患者の生き方と、映画の王道ですが、主人公が

明するよりシナリオにした方が伝えやすいと、1週間くらいで書きあげました」

在宅医として新たにキャリアをスタートさせた河田(柄本佑)だが、厳しい現実の中で自分の中に矛盾や葛藤を抱えて過ごしていた。そんな時、末期の肺がん患者・大貫(下元史朗)の担当になる。娘の智美(坂井真紀)が父のためには「痛くない在宅医」を選択したのだが、結局、大貫は苦しみ未に死んでしまう。

自分を責める智美的言葉に、河田はたまらず在宅医の先輩・長野(奥田瑛二)に相談する。長野は肺がんより肺気腫を疑うべきだったと指摘。河田は智美に心からわび、長野のもとで在宅医のあるべき姿を模

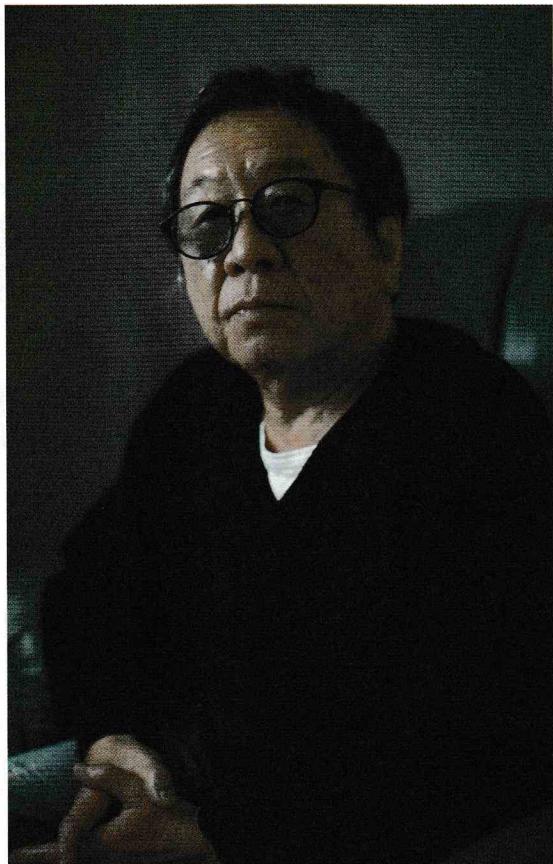
本格的な在宅医として成長していく話にしようと。口で説明するよりシナリオにした方が伝えやすいと、1週間くらいで書きあげました」

在宅医として新たにキャリアをスタートさせた河田(柄本佑)だが、厳しい現実の中で自分の中に矛盾や葛藤を抱えて過ごしていた。そんな時、末期の肺がん患者・大貫(下元史朗)の担当になる。娘の智美(坂井真紀)が父のためには「痛くない在宅医」を選択したのだが、結局、大貫は苦しみ未に死んでしまう。

僕もそうなんです。植物は枯らしてしまう。相性があるのかかもしれません。専門知識も含めて。やっぱり枯らすと悲しいですもんね。生き物だから。せっかく来てくれたのに、つて。だから割り切って、気持ちを変えたいときは切り花を買うようにしています。

さて、ご相談いただいた「想の暮らし」について考えてみたいと思います。今はリモートワークの方も多いです。生活環境の中に「職場」が持ち込まれている状況。ワーキングスペースは戦闘モードになれる場所であるべきだし、生活空間はできるだけリラックスできるほうがいい。物理的に仕切りなどで区切りつて、そこを自分の好きな場所で仕事をしています。

きれいな部屋を作ったり、料理をレシピ通りに作ったりするつて、できる人とできない人がいる気がします。できる人はいわゆる空間設計能力が高い人。クリエイティブでアレンジ能力が高い人は、逆に自分流のアレンジを加えてしまつてバランスを崩すことも多い。そういう人は誰かと一緒に理想の空間作りをするのがいいです。お友達に来てもらうとか、写真を見せて「ここに何を置いたほうがいいよ」とつて設計してもらう。そのほうが理想に近づく気がします。



たかはし・ばんめい／1949年5月生まれ。奈良市出身。72年にピンク映画「婦女暴行脱走犯」で監督デビュー。75年に若松プロに参加。60本以上のピンク映画を監督。主な作品に「TATTOO[刺青]あり」(82年)、「愛の新世界」(94年)、「禅 ZEN」(08年)、「赤い玉」(15年)など

午後3時の しいたけ.相談室

◎ 在宅勤務になつて

リビングで仕事をしています。

新たに買ったプリンターが

大きくて邪魔だつたり、

資料やプリントが散乱したりして、

憩いの場がどんどん仕事に

侵食されていきます。

観葉植物を買つてみても、

毎回枯らしてしまいます。

観葉植物を買つてみても、

毎回枯らしてしまいます。

観葉植物を買つてみても、

毎回枯らしてしまいます。

観葉植物を買つてみても、

毎回枯らしてしまいます。

観葉植物を買つてみても、

毎回枯らしてしまいます。

(女性／フリーランス／44歳／おひつじ座)

田は末期の肝臓がん患者の本多（宇崎竜童）を担当することに……。チームとして機能する医師と看護師の結束力、医療チームと患者本人、家族との円滑なコミュニケーション。本多のケアを通して、在宅医療のあり方を考えさせる。

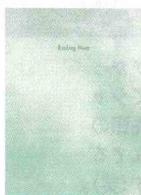
また、「死」がテーマであつても映画はユーモアを忘れない。スペースとなつてゐるのが、本多がしたためる川柳だ。死を扱う映画だからといって、どんよりするのもイヤだった。ふと思いついたのが川柳でした。これなら医療の現場で実際に見たことにも触れ

人は余命宣告を受けた時、どんな生き方ができるのか。本作の主人公は、熱血営業マンとして勤めた会社を67歳で退職してまもなく、ステージ4の胃がん宣告を受けた砂田知昭さん。娘の麻美さんが「自分が撮りたくない時と父が撮られたくない時は撮らない」というルールを決めて、撮影者として冷静に父の最期の日々をカメラに収めた。手術もできない状態と知られた知昭さんは「自らの死

もう1本

おすすめDVD

幸せな死に支度を描くドキュメンタリー



「エンディングノート」
発売・販売元：バンダイナムコアーツ
価格3800円+税／DVD発売中
©2011「エンディングノート」製作委員会

その一つが葬儀だ。砂田家は仏教なのに、知昭さんが選んだのはカトリック教会でのキリスト教式。その理由は「最期に向かって信心深く過ごす」ためではなく、ずばり「リーズナブルだから」。家から近い場所で無駄な余韻を残す。幸せな死に支度は、人生を輝かせる手段にもなる。

られるし、本多の人となりを知つてもらえるなど

例えば、「尊厳を遠くの親戚邪魔をする」。高橋監督が実際の在宅医療の現場で「無駄な延命治療を望むのは近しい親族ではなく、突然出てき

本作を完成させて改めて、「こういう死に方でいいんだ」と確信が強まりました。僕にとってはもう一つ、安楽死の問題が残つているのですが、それはまだ自分で整理がついていない。次のテーマになるかもしれません」

人は必ず死ぬ。死の選択肢を広げることは、生を輝かすことにもつながるに違いない。



「痛くない死に方」

2月20日から東京・シネスイッチ銀座、3月5日から大阪・なんばパークシネマほか関西地方で順次公開
©「痛くない死に方」製作委員会

たような親戚がもつともらしく言うケースが多いと聞いて、作った。本多が震える手で最終的に遺した「いちどだけう

くありました。ゆるせつまには、きつぶのいい大工として生きたであろう本多自身の姿と、妻への愛がじむ。と、実は作り上げたときに満足できないかもしれない。ミニチュアを作るみたいな感覚で、自己満足の空間を作ると、それが養分になると想います。

僕はどうぶつの森で理想の部屋を作つて結構満たされたところがあります（笑）。そのあとで、いよいよ本格的にお部屋全体の設計に移つていきましょう。

おひつじ座に関していうと、他人からかっこいいと言われることが一つのエネルギー源になる人たちです。非公開の自分だけの部屋だとすごく洒落になるんだけど、人に公開する仕様にするとブレてしまうときがある。おひつじ座が落ち着く環境で大事なのが、「非日常感」。ぐつと戦闘モードを上げていろんなことを短期間で解決していく人が多いから、自然物じゃない空間でアドレナリンがすごく上がる感覚があります。幾何学とかテクノっぽいもの、色だつたらどう? ピンクとか、ケミカルなちょっと不健康な感じがするものに囲まれると、落ち着けるかも。スター・ウォーズのフィギュアとか好きな人も多いですね。



イラスト：あーちん

今週のアドバイス 声を上げる

今週は物事が動き出していく流れがあつて、大事なのが「声を上げる」になります。これは、日頃抱えている怒りを声高に言うわけではなくて（もちろんそれも悪くはないのですが）、どちらかというと「一緒に頑張ろうぜ系」の声です。ここまで「冬」という季節に代表されるように、多くの人は「黙々」と時間を前に進めなければいけませんでした。でも、今週は「よし、やっちゃおうよ！」とか、「一緒にやろう」とか、声を掛けた人が次を切り開いていきます。

今週のカラー 赤

今週、できる限りでいいので、「勝負」とか「派手」に象徴されるような赤を取り入れてみてほしいのです。結果をそこまで気にせず、やってしまふことがチャンスを作り、全体のテンションを上げていくことになるから。もしできたら、目立ってみて。

【相談募集】したいけど、さんに相談したいことをお寄せください。相談内容、お名前、性別、職業、年齢、星座を書いてメールbg@asahi.comにお送りください。誌面にお名前は掲載しません。

したいけど、◆占い師作家。早稲田大学大学院政策学研究科修了。哲学を学ぶながら、占いを学問として勉強。「VOGLUE GIRL」での連載「EENKY！」したいけど、でも人気